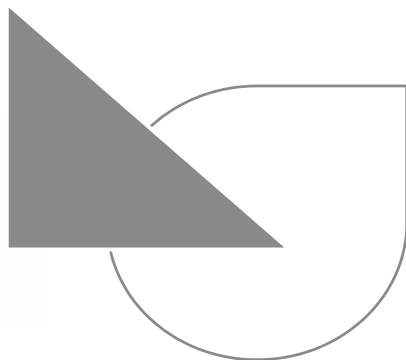


編集員のつぶやき。

飛翔

な

日々



## 意見文アバウト感想文

大西 海光

小さい頃から、読書感想文というものが嫌いだった。読書はとても好きで、勉強そっちのけで読んでいて母に呆れられたこともある(母も読書好き、本を読む楽しさは理解してくれてはいたが)。それくらい本を読むことが好きであったが、なぜか感想を言葉や文字に表すことが大の苦手であった。よって、毎年の夏休みの恒例の宿題：「読書感想文」が大嫌いだった。

読書感想文の書き方を先生や親、友達に尋ねてみるも、いざその通りに書こうとしても手が動かない。「あらすじは何を書けばいいのだろうか?」「結末への大事な伏線がありすぎてまとめられない!」「このお話は好きだけど別に私と重なる部分はないな。」「私

の心を大きく動かしてくれているのは確かだけどその正体が掴めない!」  
：ダメだ。何にも書けない。「そんなの、嘘っぱちでもいいからそれっぽいこと書いちゃえよ」と、そんなふうに言う人もいるかもしれないが、それは私のポリシーに反する。自分の気持ちに嘘はつけない(つきたくない)し、自分が選んだ本を、何よりその本を創り上げた筆者の思いを大事にしたかった。だから、嘘を書くのはもちろん、しっかりと来ない言葉で無理やり表現するのも私は私自身に対して許せなかった。

そういう思いを抱きつつ毎年書く読書感想文、それはそれは悲惨であった。唯一言葉として表すことができた思いを違う言葉で延々と書き綴る羽目になったり、長すぎるあらずじで規定文字数の半分に到達したり…。苦々しい記憶だ。きつと同じような思いを

した人もいることだろう。

思いを他人に正確に伝える能力は万国共通で大事なものだろうから、その力を伸ばすためにはこうした読書感想文などが必要なのはわかつている。だからこそ、私は同じ思いで苦しむ子どもに出会っても、生産性のあることは何一つとして言えない。応援するのみだ。…ただ、本を読むことは素晴らしい。本当に。だから、たとえ大人が君の気持ちを無理やり汲もうとしてきて苦しくても、本を読むことをやめないでほしい。多かれ少なかれ、本は人生を豊かにするから。

…なんていう、届きようのない一大学生のぼやき。私にも宿題はあるからお互い頑張ろうね、全国の少年少女。

## マジ卍

安部 雄登

今のご時世、いろんな言葉が流行っていく。ドラマのセリフだったり、その年に流行ったお笑い芸人のネタだったり。大体の言葉は、誰か有名な人が発信源になっている。

しかし、たまに例外がある。

「マジ卍」って誰が言った!?

こんな言葉が流行ってますよ、とテレビ等で紹介され、そこから広まっていた印象があるが、そもそも誰がこの言葉を作ったのか。そしてそれがどうして流行するまでに至ったのか。

そもそも、どういう発想に至ったら「卍」という言葉を使うことになるのか。色々とよくわからない。ちよつと調べてみたが、これは元々女子高生の間で流行っていた言葉らしい。女子高

生の拡散力やいかに。この言葉を最初に考えた名前も知らぬどこかの誰かは、今頃誇らしく高笑いしているのだろうか。

少し前に「あげぽよ」とかいう言葉もあつた気がする。ぽよって何だ。これもまた名無しの権兵衛が考えたのだろうか。

そもそも、これらの言葉を流行する前から使っている人を見たことがない。そんなの、都会だけの話なのではないか。写真を撮るだけとって食べずに捨てる「インスタ女子」だって見たことがない。良いことも悪いことも、流行とか話題になるものは、元をたどれば都会、特に東京で話題になっているものであつて、田舎には全く関係ないのではないか。テレビで取り上げられることによって全国に広まっていくが、テレビで「流行」として紹介されるものは都会に限った話なのだ。流行

の定義は、きつと「全国で」じゃなくて「都会で」なのだろう。

全く、都会というものは自分勝手である。都会での当たり前、流行を押し付けられても田舎からしたら知っこっちゃない。山手線の各駅なんてどうでもいい。総武線？自分は山陽線にしか用はない。東京ドーム何個分って言われてもピンとこない、東京ドームの広さを知らない。しかしそんな内容ばかりで田舎者を置いてけぼりにしていくテレビは沢山ある。

日本の中心は都会。時代の中心も都会。そんな都会目線で物事は進んでいく。時代についていこうと思ったら、都会の人間になるしかないのだろうか。田舎じゃダメなのだろうか。

何という事だ。うっわ、マジ出なんですけど。